

平成 27 年度第 4 回（一社）日本生物物理学会理事会議事録

日時：2016 年 2 月 20 日（土）12：30～16：00

場所：大阪大学産業科学研究室・永井研究室、東京大学分子細胞生物学研究
所本館 206 号室ほか（TV 会議）

出席者：理事総数 18 名 出席理事 15 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	中村 春木	理事（副会長）	高橋 聡
理事（副会長）	永井 健治	理事	新井 宗仁
理事	石島 秋彦	理事	内橋 貴之
理事	大上 雅史	理事	佐甲 靖志
理事	佐藤 竜馬	理事	高田 彰二
理事	寺沢 宏明	理事	中井 孝尚
理事	広瀬 恵子	理事	古谷 祐詞
理事	光武 亜代理		

監事総数名 出席監事 1 名

監事 片岡 幹雄

オブザーバー：

欧文誌編集委員長	石渡 信一
ホームページ編集委員長	北尾 彰朗
邦文誌生物物理編集委員長	神取 秀樹
平成 28 年度年会実行委員長	豊島 陽子
平成 29 年度年会実行委員長	山縣 ゆり子

陪席者：

学会京都事務局 向井 牧子

議長：代表理事（会長） 中村 春木

議事録作成者： 理事 佐藤 竜馬

理事 大上 雅史

報告事項および審議事項

報告事項：

1. 平成 28 年度年会準備報告（豊島）資料：報 1
2. 平成 29 年度年会準備報告（山縣）資料：なし
3. 平成 30 年度年会について（中村）資料：なし
4. 出版委員会報告（永井）資料：報 4
5. 科研費活動報告（石渡）資料：報 5
6. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高橋）資料：報 6
7. 男女共同参画学協会連絡員会報告・分担金支払の報告（高橋）資料：報 7
8. IUPAB・ABA 関連報告（中村・高橋）資料：報 8
9. 賞・助成金推薦委員会報告（永井）資料：報 9
10. 木下一彦先生“お別れ講演会”の報告（石渡）資料：報 10
11. TV 会議システムについて（永井）資料：なし
12. その他

審議事項：

1. 出版委員会からの提案（永井）資料：議 1
 - a) BPPB 掲載料・ページチャージ無料キャンペーンについて
 - b) 欧文誌編集委員会規約改定について
 - c) 新編集委員の選出について
 - d) 論文賞規約改定と第 5 回 BPPB 論文賞選考委員の選出について
2. 男女共同参画若手支援関連議題（高橋）資料：議 2
 - a) 若手奨励賞について（応募条件、名称、年齢制限、選考委員）
 - b) 「学生優秀発表賞」および「学生最優秀発表賞」について
 - c) 2016 年度年会シンポジウム企画案
3. 年会における国際交流促進について（中村）資料：議 3
4. 特許の記載について（古谷・光武）資料：議 4
5. 滞納 3 年以上の会員の除籍と会員数の推移について（古谷・光武）資料：議 5
6. 平成 29・30 年度会長選挙・代議員選挙 選挙管理委員長の選出について（中村）資料：議 6
7. 江崎玲於奈賞推薦候補の選出について（永井）資料：議 7
8. 国際物理オリンピック 2022 年の日本大会開催について（中村・石渡）資料：議 8
9. 平成 28 年度総会シンポジウムについて（野地 代理：中村）資料：議 9

10. 会員の除名について（中村） 資料：議 10

11. その他

定足数の確認：

理事会の審議に先立ち、議長中村春木氏より、定足数のご報告。

理事総数 18 名のうち出席者 16 名により過半数を超えた。

定款第三十二条（決議）

理事会の決議は、決議について特別な利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

報告事項：

1. 平成 28 年度年会準備状況（豊島）資料：報 1

豊島年会実行委員長から、筑波年会準備状況の報告があった。

- ・ 今後シンポジウムについて現在、4 件の応募がある。本部企画として二国間交流のシンポジウムを開催する予定（韓国、中国、オーストラリア）。二国間交流に際してオーストラリアから二名の招待講演を予定している。ランチョンセミナーについて応募等は現在なし。学生発表賞の選考に際してフラッシュトークを行う予定であるため、シンポジウム会場（7 会場）を 1 時間程度使用する予定。ランチョンセミナーを開催したのち会場が空いていたが、本年会では空き時間がないため企業と会員との間の質疑応答用の部屋を用意する必要がある。紫ペー
ジは 3 号と同時期に発行予定。3 月中に原稿を作って進める。

2. 平成 29 年度年会準備状況（山縣）資料：なし

山縣年会実行委員長から、熊本年会準備状況の報告があった。

- ・ 日本物理学会が 2017 年 9 月 21 日-24 日に変更となったため、生物物理学会の日程を 9 月 19 日-21 日に変更。日本物理学会の日程変更があり、日程が被ってしまったため生物物理関係は後半の日程になるように日本物理学会と相談していく。ポスター会場について当初予定していた会場に空調がないため、場所の変更を行うか、スポット冷房等を借りて体育館で開催するか検討。

3. 平成 30 年度年会について（中村）資料：なし

中村会長から、岡山年会準備報告の報告があった。

- ・ 日程について 2018 年 9 月 15 日-17 日または 22 日-24 日を候補として準備を進めている。会場について岡山大学 津島キャンパスを開催予定。

4. 出版委員会報告（永井）資料：報 4

永井出版委員長から出版委員会について報告があった。

- BPPB 誌について 2015 年 7 月より名称を変更した（Biophysics から Biophysics and Physicobiology）。出版状況：BPPB論文掲載数：2015年12月31日時点でBIOPHYSICS Vol.11 16編、BPPB Vol.12 16編、2016年2月17日時点でBPPB Vol.13 3編が掲載された。本年度は3編が発表され、審査済み11編、編集中が6編で現在掲載可である論文は9編。投稿された論文は現在4編（依頼論文を含む）。PubMed掲載は目処が付き、公開を待っている状態。2016、2017年が終わった後、2018年から擬似IFが計算される。2016、2017年に掲載された論文が2018年までにWeb of Scienceに登録済みの論文誌の論文でどれだけ引用されたのかがカウントされ、擬似IFが計算される。このことから2019年にIF取得を申請することを目指す。BPPB 誌の国際情報発信強化のために、2015年12月末までの国外からの投稿料・掲載料免除のキャンペーンを実施し、応募が1件あった。今後も掲載料・ページチャージの無料キャンペーンを行うことを考えている。新たな取り組みとして、編集委員による「特集」「追悼号」を予定している。ScolarOne Manuscripts の操作マニュアル作成。投稿規定のSignificanceについて、(less than 100 characters in length)に、タイトルは(less than 15 words in length)に変更した。ScolarOne Manuscripts でEC、EIC宛てのE-Mail テンプレート内にダウンロード用のリンクURLを表示するようにした。現在のInstruction & forms 月から投稿規定をリンク設定した。Instructions for Authors へのリンクを追加した。Editor が判定するときの画面で「Editors' Choice Award に推薦する」とチェックできる欄を設けた。ウェブサイトで、Guide for Authors から Instructions for Authors に変更した。Significance の論文ページ掲載について、由良先生の特集号でCASE STUDY とすることをBPPB編集委員会で検討中。コピペ等のチェックのためのCrossCheck導入について検討中。Editor's Choice Award に対して、「推薦する」とチェックできる欄を設けた。英文校閲について科研費において英文校閲費が予算化されているが、利用が3件あった。うち2件（38,800円）は支払済。編集委員の役割分担変更について（HP変更済み）片岡氏は、これまで国際関係担当（ABA担当）だったが、ABA担当は由良氏（副委員長兼）とする。片岡氏は、国際担当の委員となった。

5. 科研費活動報告（向井）資料：報 5

向井氏より科研費活動について報告があった。

- 1月15日のBPPB Vol.12 製作費に中西印刷からの請求に誤りがあったため返金手続きを行っている（現在、返金済み）。

6. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高橋）資料：報 6

高橋委員長から男女共同参画・若手支援委員会報告に報告があった（審議事項に詳しく記載する）。

7. 男女共同参画学協会連絡委員会報告・分担金支払の報告（高橋）資料：報 7

高橋委員長から男女共同参画学協会連絡委員会について報告があった。

- ・ シンポジウムは 2016 年 10 月 8 日-9 日にお茶の水女子大学で開催予定。男女共同参画学協会連絡委員会分担金 10,000 円が処理された。

8. IUPAB・ABA 関連報告（中村・高橋）資料：報 8

中村会長より IUPAB・ABA 関連について報告があった。

- ・ 二国間交流について韓国から Prof. Tae-Young Yoon (Yonsei University)、Prof. Sungchul Hohng (Seoul National University) 他、1 名（選定中）から「韓国-日本共催 1 分子生物物理学の最前線（仮題）」で講演していただく予定。オーガナイザーは榎 佐和子氏。

9. 賞・助成金推薦委員会報告（永井）資料：報 9

永井副会長から賞・助成金推薦委員会の報告があった。

- ・ 第 57 回藤原賞に難波 啓一氏を推薦することに決定した。2016 年度山田科学振興財団研究援助候補者の推薦について、村越 秀治氏、枳尾 尚哉氏を推薦することに決定した。その他これまでに推薦結果について、第 6 回育志賞に山本 詠士氏が受賞した。

10. 木下一彦先生 “お別れ講演会” の報告（石渡）資料：報 10

石渡氏から木下一彦先生 “お別れ講演会” について報告があった。

- ・ 2015 年 12 月 18 日に開催した。参加者：200 名程度。アメリカ生物物理学会が Kazuhiko Kinoshita Memorial Fund を設立し目標が 5 万ドルであったがすでに 6 万ドル程度の寄付が集まっている。

11. TV 会議システムについて（永井）資料：なし

永井副会長から TV 会議システムについて報告があった。

- ・ TV 会議システムのセキュリティについて、今回はライフサイズクラウドを用いて繋いでいる。ライフサイズクラウドはデバイスを選ばない。セキュリティについて、通話は AUS、PLS 等で暗号化され盗聴者がデータの再生成を行うことができないようになっている。本システムは一件あたり年間 45 万円であり、今後は日本生物物理学会で自前のシステムを購入することも考慮することとした。

12. その他

特になし

審議報告：

1. 出版委員会からの提案（永井）資料：議1

- ・ BPPB 誌掲載料・ページチャージ無料キャンペーンについて予算は 2016 年・2017 年の 2 年間で総額 100 万円（年間 50 万円までとする）として承認された。欧文誌編集委員会規約改定について「Impact Factor を申請するまでは、委員長は継続し、副委員長、委員の人数、選考ならびに任期は委員長に裁量権を持たせる」に規約を改定することで承認された。本理事会では、<改定案>「次期編集委員長は就任が決まった時点で次期副委員長候補を指名する」にまず改定する。欠員が出た場合など、全体をカバーできるように文言を今後練っていくことで承認された。新編集委員の選出について BPPB 誌の Associate Editor として Florence Tama 氏と沈 建仁 氏への就任を依頼することで承認された。第 5 回 BPPB 論文賞選考委員の選出と規約の改定について賞名を下記の通り変更することで承認された。

日本語名：BIOPHYSICS 論文賞から Biophysics and Physicobiology 論文賞

英語名：Award for outstanding BIOPHYSICS paper から Award for outstanding Biophysics and Physicobiology paper

選考委員について、中村春木会長、石渡信一 BPPB 編集委員長、永井健治副会長（賞選考委員長を務める副会長）が役務上決定。内橋貴之氏、北尾彰朗氏、野口巧氏、根岸瑠美氏が出版委員会から推薦され承認された。

2. 男女共同参画若手支援関連議題（高橋）資料：議2

- ・ 若手奨励賞について（応募条件、名称、年齢制限、選考委員）

HP に記載されている「6. 学会欧文誌「BIOPHYSICS」に論文を主著者あるいは共著者として少なくとも一報発表していること。」については廃止し、「審査においては学会活動への参加も考慮する」、等とすることで承認された。「若手奨励賞」の名称は変更しないこととなった。応募条件として「35 歳以下あるいは学位取得後 8 年以内。ただし、出産・育児・介護の期間がある場合は 10 年以内とする」として承認された。「学生優秀発表賞」および「学生最優秀発表賞」の新設について承認された。2016 年度年会シンポジウム企画案について今回は特に審議を行わず、今後も活動を続けていく。

3. 年会における国際交流促進について（中村）資料：議 3
 - ・ 理事会費は TV 会議導入で 100 万円程度削減できる見込み。この 100 万円を、「グローバル推進事業費」に変えて予算を組む。予算案において、理事会費から 100 万円を減額し、グローバル推進事業費 100 万円を追加することが承認された。

4. 特許の記載について（古谷・光武）資料：議 4
 - ・ 特許の記載について日本化学会を参考にした案 2 が承認された。改定の際には日本化学会との著作権の問題に注意する。会長室から日本化学会へ特許の記載について参考にしたという旨を伝える。

5. 滞納 3 年以上の会員の除籍と会員数の推移について（古谷・光武）資料：議 5
 - ・ 会員数は減少傾向にあり、滞納している者に対して連絡を随時取っていく。3 年滞納した会員に対しては一度除籍されても改めて会員になることは可能とすることで承認された。学部生等に学会に参加していただくために、Web サイトでの公開だけではなく個々人で声がけをしていく必要がある。

6. 平成 29・30 年度会長選挙・代議員選挙管理委員長の選出について（中村）資料：議 6
 - ・ 平成 27 年度第 6 回理事会において、平成 27・28 年度の選挙管理委員長に寺北明久氏が選出されている。平成 28 年度に行われる選挙については、寺北氏に選挙管理委員長を依頼する。

7. 江崎玲於奈賞推薦候補の選出について（永井）資料：議 7
 - ・ 野地博行氏と原田慶恵氏に応募を依頼することが承認された。

8. 国際物理オリンピック 2022 年の日本大会開催について（中村・石渡）資料：議 8
 - ・ 高田渉外担当理事から、光岡氏に、理事会において学会代表として指名する旨を連絡し、学会としてオーソライズすることで承認された。

9. 平成 28 年度総会シンポジウムについて（中村）資料：議 9
 - ・ 「1 分子生物物理のはじまりとこれから ～木下一彦氏を偲んで～（仮）」として企画を進めているとの報告があった。野地理事にはこのまま進めていただくことで承認された。

10. 会員の除名について（中村）：議 10
 - ・ 対象者から退会届が提出され、退会手続きが完了した。

11. その他

特になし。

連絡事項：

1. 次回理事会日程について（中村）

2016年 4月 23日（土）12:30～

場所：大阪大学産業科学研究室・永井研究室、東京大学分子細胞生物学研究所本館
206号室ほか（TV会議）

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 16:00 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 28 年 3 月 22 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 27 年度第 4 回理事会

代表理事 中村 春木（印）

監事 片岡 幹雄（印）